

進路指導部

部長：白井啓子

副部長：三宅正洋

(1) 今年度の目標

生徒一人ひとりが志を持ち活力ある自立した個人として育っていきけるよう、自ら調べ、考え模索する「進路学習」を促し、支え、進めさせる。各学年の重点目標は以下の通り。

- (1年) 自分の将来について考える
- (2年) 自分の適性や資質を探り、高める
- (3年) 進路志望の実現に向けて自分を磨く

(2) 主な取り組みの計画

- ① 「進路HR」（1年生では総合学習の時間（TP）も含む）を通して、職業や、学部・学科について考えさせる。また、大学・学部等の情報を得る機会として、大学入試のシステムを調べさせたり受験の心構えを伝えたりする。
- ② 「進路の手引き」を活用し、自分の現状を確認しながら進路について考えさせる。
- ③ 「面接」をとおして、生徒が主体的に進路を決定していけるようにサポートする。また、「生活時間調査」をとおして、自主的な学習状況を見直させる。
- ④ 「進路・コース選択説明会」「進路説明会」の実施、「進路だより」の発行などを通して情報を的確に伝え、進路意識を高めさせる。また、3学期終業式後、3年生が受験体験を1，2年生に話す機会を設け、身近な手本やモデルとしてとらえることで大学入試への意識を高めさせる。
- ⑤ 「キャンパスツアー」「大学・研究室体験」「e-ラーニング」等の実施により、大学や研究の現状を知り体験させる。
- ⑥ 学年団会、学習模試検討会、進路指導研修会、線引き会、「進路指導シラバス」等を生かし、教員が情報の共有を図るとともに進路指導力の向上に努める。

(3) 成果

- ①② 2. 3年生は年3回進路HRを実施、1年生は3学期の進路HRとともに、「総合学習（テーマプロジェクト＝TP）」でキャリアガイダンス室を利用するなど、進路について調べ考えさせることができた。「進路の手引き」は、学年ごとに編集して生徒一人一人に配付、1学期の進路HR（1年生はTP）において説明するとともに、その中に載せられている先輩の「合格体験記」を折りに触れ紹介した。
- ③ 「生活時間調査」を年5回実施、「面接」は年3回の「面接週間」のほか、校内外の学力テスト返却の折等必要に応じて、相談に乗りまたアドバイスがなされている。

進路指導室も、昼休みと放課後、時間の許す限り相談や質問に応じている。

- ④ 5月に「進路説明会（3年生及び2年保護者対象）」、11月に「進路・コース選択説明会（1年生対象）」を実施し、進路について考えさせることができた。「進路だより」を学年団ごとに4～5号発行、タイムリーな情報提供に努めている。特に2年生は、2学期末に「3年0学期を前に」という形で詳しい学習法等を紹介し3学期始業式の日学年集会での「3年0学期宣言」に向けて意識の高揚をはかることができた。3学期終業式後には「卒業生に聴く会」という形で、卒業したばかりの3年生や、補習科生7、8名が、1、2年生に向けて、自身の高校生活や受験体験を語ってくれている。身近な先輩の話を複数聞くことができ、生徒一人一人がそれぞれに自身の手本としたいものを得ることができ、好評である。今年度も実施を予定している。
- ⑤ 希望者を対象に、「東京へのキャンパスツアー」「京都大学オープンキャンパス」「大阪大学研究室体験」を実施し、「東京～」に19名、「京都～」に27名、「大阪～」には38名の生徒が参加した。それぞれに多くの刺激を受け、進路意識を大きく向上させることができた。「阪大eラーニング」「東大教養講座」も継続実施し、参加者は少ないものの、より深い「学び」を知り、学習意欲を高めたり自己の進路を考えたりする良い機会となっている。11月には、岡山、広島県を中心に近県数校で実施している「難関大学合同合宿」に2年生の希望者10名が参加、学力の向上を図るだけでなく、学習面でのリーダーとなるべき生徒としての自覚を高めることができた。
- ⑥ 4月に進路指導部が作成した「進路シラバス」を全教員に配付し、3年間を見通しての進路指導の道筋を示すことができた。進路指導部の各学年責任者を中心に団会、学模検討会等での情報の共有、意見交換を進め、線引き会についても個々の生徒に目を向けるとともに、教員の進路指導力の向上につながるものとすることができた。

（4）課題と次年度以降の改善策

進路指導は、生き方や自己実現といった大きなテーマとつながっており、3年間かけて生徒自身がじっくり考え向き合っていく中ではじめて実現していくものだと思われる。現在本校でなされている様々な取組はそうした視野で考えられたものではあるが、常に生徒の状況を見据えて反省を加え、より良い形で継続していかなければならない。そのため、各教科や学年団と連携を一層図り、生徒が真摯に考え求めていく雰囲気を高めていきたい。キャリアガイダンス室の利用も3年生が中心になるものの、配付資料の充実やわかりやすい資料配置で、1、2年生にもより利用しやすい環境を作っていきたい。また、3年間を見通した進路指導という観点から「進路シラバス」の充実も今後の課題である。

